

2025年11月9日（日）

日本基督教団 大宮教会

大宮教会ビジョン

「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」

- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -

（マタイによる福音書 28：19～20）

降誕前第7主日

朝第1礼拝 9:00～10:00

朝第2礼拝 10:30～11:45

＜神の招き＞

前 奏 ①② 天にまします我らの父よ プクステフーデ

招きの詞 詩編117：1～2

交読詩編 105：1～15

讃美歌 8

＜神の言葉＞

聖 書 申命記33：26～29
（旧約 聖書協会共同訳 322 頁）
マルコによる福音書15：42～47
（新約 聖書協会共同訳 95 頁）

祈 禱
讃 美 歌 50
説 教 「墓に葬られた主」
熊江秀一牧師

祈 禱
黙 想
讃 美 歌 296

＜神への応答＞

使徒信条
献 金
主の祈り
宣教報告②
頌 栄 28

派遣と祝福

後 奏 ①② 我が心の切なる喜び プラームス
宣教報告①

夕 礼 拝 18:00～19:00

＜神の招き＞

前 奏
招きの詞 詩編117：1～2
交読詩編 105：1～15
讃 美 歌 10

＜神の言葉＞

聖 書 詩編37：32～40
（旧約 聖書協会共同訳 854 頁）
ルカによる福音書4：31～44
（新約 聖書協会共同訳 107 頁）

祈 禱
讃 美 歌 464
説 教 「悪霊を追い出す」
佐藤潤伝道師

祈 禱
黙 想
讃 美 歌 471

＜神への応答＞

使徒信条
献 金
主の祈り
宣教報告
頌 栄 25
派遣と祝福
後 奏

今週の御言葉（マルコによる福音書 42：～43）

すでに夕方になった。その日は準備の日、すなわち安息日の前日であったので、アリマタヤ出身のヨセフが、思い切ってピラトのもとへ行き、イエスの遺体の引き取りを願い出た。この人は高名な議員であり、自らも神の国を待ち望んでいた人であった。

次週の礼拝（11月16日）幼児祝福式

①9:00 ②10:30 夕18:00

説教「主の復活」熊江秀一牧師

詩編16：1～11、マルコによる福音書16：1～8

交読詩編77：5～16

讃美歌 9、51、335、28

*礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。*は祈禱当番の方。*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、夕は夕礼拝。

■今週の祈禱課題■ 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に
2. 東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に
3. 幼児祝福式の為に
4. 各部例会（壮年・婦人・青年・新しい会）の為に
5. 関東教区の為に
6. 関東改革長老教会協議会公開講演会の為に
7. イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、世界の平和の為に
8. 病気の兄弟の為に

*関東教区お祈りカレンダー 久美愛教会 浦和別所教会 浦和東教会

◇先週の説教より「キリストの十字架」マルコによる福音書 15章33～41節、詩編22編1～6節 熊江秀一牧師

主イエスの十字架の死の場面で与えられた。それは「全地は暗くなり」罪の闇が世界を覆う出来事だった。しかし神はこの闇のただ中で救いの光を輝かせて下さった。それは主の命による神と人との和解であった。

この時、主イエスは「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」と叫ばれた。これは詩編22編2節の言葉である。主は十字架の苦難のどん底にありながら、父なる神を信頼し「わが神」と呼んだ。しかしこの叫びは同時に、私たち人間の罪の重さに対する叫びでもあった。主は人間の罪をあがなうために神に見捨てられなければならなかった。これは本来ならば罪人の私たちが受けるべきことである。その呪いを主が代わって受けて下さった。

私たちはイザヤ書53章のように「羊の群れのようにさまよい、それぞれ自らの道に向かって行った」罪人であった。

その罪の極みが神の子を十字架にかけて殺すことであった。しかし主は罪人の私たちを拒絶するのではなく、受け入れて下さった。苦しみの中で、主は私たちを愛し抱き締めて下さった。「彼の受けた打ち傷によって私たちは癒された」。それはすべて神のご計画だった。

主が息を引き取った時、神殿の垂れ幕が、真つ二つに裂けた。その時、神と人との間をさえぎる隔てが取り除かれた。さらにその時、人と人との隔ての壁が壊された（エフェソ 2:14）。主の十字架によって神と和解し、隣人と共に生きる道が開かれたのである。

この主イエスの十字架を見届けた百人隊長は「まことに、この人は神の子であった」と告白した。

私たちも百人隊長と共に私たちも十字架の主に対して、まことにこの人は神の子であったと告白しつつ、主が来られた意味を心に刻み、降誕前の日々を歩もう。